

【ポスターセッション】

## 離島高齢者のメンタルヘルスに関する研究

○ 北都保健福祉専門学校 早川 明 (7141)

山下 匡将(名古屋学院大学・6673)、嘉村 藍(仙台白百合女子大学・5846)、小関 久恵(東北公益文科大学・5845)、村山 くみ(松本短期大学・5666)、古川 奨(札幌心療福祉専門学校・5847)、大月 和彦(文教大学・2164)、志水 幸(北海道医療大学・1727)

キーワード: GHQ-28、精神的健康度、ライフスタイル

## 1. 研究目的

ライフスタイルが多様化する中「平均寿命」の延伸に変わり、自立して健康に暮らすことのできる期間を示した「健康寿命」の保持が重要視されている。健康で豊かに生活するためには、身体的な健康ばかりではなく、精神的な健康の維持・促進を通して「健康寿命」の延長を図ることが重要である。

そこで、本研究では、生活様式が比較的画一化されている離島住民を対象に、精神的健康の関連要因について、ライフスタイルや社会とのつながりに着目しつつ検討することを目的とした。

## 2. 研究の視点および方法

研究対象は、新潟県岩船郡に属する粟島浦村（孤立小型離島）に居住する40歳以上の住民222名と、山形県酒田市に属する飛島（孤立小型離島）に居住する満40歳以上の住民187名である。調査は、原則として配票留置法による調査を行ったが、回答者の事情により記入することが困難であった場合や、調査対象者の希望があった場合にのみ、訪問面接調査を行った。調査項目は、調査項目は、1) 基本属性等に関する6項目、2) 地域との関わりに関する10項目、3) 地域の福祉に関する11項目、4) 民生委員に関する2項目、5) 福祉のまちづくりに関する2項目、6) 介護サービス等に関する4項目、7) 社会関連性指標に関する18項目、8) 健康生活習慣に関する10項目、9) 健康状態に関する8項目、10) ソーシャル・サポートに関する16項目、11) 精神的健康に関する28項目、12) 楽観性に関する12項目、13) 生活満足度尺度Kに関する9項目、14) 老研式活動能力指標に関する9項目（13項目）の計145項目を設定した。分析にあたり、精神的健康度を「問題なし群」、「問題あり群」と分類しこれを目的変数とした。説明変数として1) 基本属性、2) 身体的要因、3) 社会的要因、4) 精神的要因等を設定し、精神的健康度との関連の有意性について分割表を用いて検討した。解析について、単変量解析ではFisherの直接確率検定、多変量解析では、精神的健康度を目的変数、単変量解析で有意であった項目を説明変数、性別・年齢を調整変数とし、説明変数の領域ごとにロジスティックモデルを構築した。

### 3. 倫理的配慮

研究対象者から事前に研究協力の了承を得るが、アンケートの際に改めて書面と口頭によって研究目的と研究参加方法を説明し、研究協力の意思を確認した。また、研究協力をいつでも辞退することができること、辞退した場合でも対象者が不利益を被ることはないこと、調査で得た情報は研究目的以外には使用せず、論文作成やその他の方法で公表する場合においても、個人が特定されることがないようにプライバシーの保護を徹底することを説明した。アンケートを行う場合も、プライバシーが守られるように周囲の状況に配慮した。

### 4. 研究結果

回収率は、粟島浦村では住民 222 名のうち、160 名（回収率 72.1%）、飛島では 40 歳以上の住民 187 名のうち、138 名（回収率 73.8%）より回答を得た。高齢者の年齢で、平均年齢（Mean±SD）は 74.1±6.3 であった。精神的健康度の分布については、高齢期の平均得点（Mean±SD）は 6.3±4.8 であり、また、精神的健康度について高齢期では 94 名（60.6%）の回答者が「問題なし」と感じていた。単変量解析で有意な（ $P < .05$ ）関連が認められた項目は、質的変数では 28 項目、量的変数では 5 項目であった。多変量解析で独立性の高い変数として検出された項目は、高齢期においては「自覚的ストレス量」「LSI-K 総得点」「悲観的自己感情得点」「2ヶ月以内の通院」「あなたが病気で2-3日寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人がいますか」の5項目が選択された。